

## 新型コロナウイルス感染症 5類移行後のがん看護に求められる感染対策

新型コロナウイルス感染症は大規模災害として位置づけられ、人々の生命や暮らしを脅かすとともに、医療や社会、生活様式の変更を余儀なくしました。本委員会では、2020年6月に「COVID-19に伴う外来がん薬物療法を受ける患者・家族への看護実践の手引き（第1.0版）」を作成し、2022年度に第2版を公開しました。

新型コロナウイルス感染症は2023年5月に5類感染症に移行しました。パンデミック初期より弱毒化したものの、市中での感染拡大の波は繰り返されています。病院等でも制限はやや緩和されているものの、いまだ面会などは十分にできないなど、感染防止を踏まえた対策が求められています。

今年度の研修会では、がん看護領域における感染看護のエキスパートより、新型コロナウイルス感染症5類移行後のがん看護に求められる感染対策についての講義、および、「手引き」改訂メンバーより「手引き」を生かした5類移行後の感染対策の実際について講義いただき、最新情報と動向に基づいた、がん看護領域における今後の感染対策の在り方について検討する機会としたいと考えます。

2024年  
2月24日(土)  
13:40~15:10

会場

第6会場（神戸国際会議場 301）

講師

今だからこそ習慣付けよう感染対策の基本

～安心してがん治療が継続できる環境を提供するために～

杵木 優子（国立がん研究センター中央病院 感染看護認定看護師）

外来化学療法の「コロナ共生」時代の対策

浅野 耕太（京都第二赤十字病院 がん看護専門看護師）

座長

宮下 光令

日本がん看護学会 理事・災害対策委員会委員長  
東北大学大学院医学系研究科・教授

今津 陽子

日本がん看護学会 災害対策委員会  
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・准教授